令和5年度　学校評価書（共通）　前期

校名　宇和島市立三間小学校

1　自己評価書

教育目標	笑顔で力いっぱい取り組む三間の子を育てる
基本方針	体験・感動・発見・交流　さまざまな人との「かかわり」と「つながり」
本年度重点目標	1　社会総がかりで取り組む教育の推進 2　安全・安心な教育環境の整備 3　確かな学力を育てる教育の推進 4　互いの人権を尊重する教育の推進と児童の健全育成 5　豊かな心、健やかな体を育てる教育の推進

評価項目		評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価
確かな学力の定着と向上	①	全国学力・学習状況調査及び市標準学力調査の活用	自校のねらいに沿って、各調査を分析し、成果と課題を把握し、具体的な対策を講じた。	・分析資料の作成	C	C
				・具体的な対策の実施	C	
	②	授業改善	主体的・対話的で深い学びの実現に向けて授業改善に努めた。	・教師アンケート	C	B
				・保護者アンケート	B	
				・児童生徒アンケート	B	
			ねらいを明確にした分かる授業を行うとともに、学びの成果を実感させる振り返りを行った。	・教師アンケート	B	B
				・児童生徒アンケート	B	
			一人1台端末（iPad）及びEILS（えひめICT学習支援システム）を積極的に活用し、個に応じた新しい学びのあり方の推進に努めた。	・教師アンケート	C	C
				・保護者アンケート	C	
				・児童生徒アンケート	B	
	③	家庭学習の充実	家庭との協働による主体的な学習習慣の確立に努めた。（予習・復習・振り返り等）	・教師アンケート	C	B
				・保護者アンケート	B	
				・児童生徒アンケート	B	
	④	読書活動の充実	読書に対する関心や意欲が高まるような取組や声掛けを積極的に行った。	・教師アンケート	C	C
				・保護者アンケート	C	
				・児童生徒アンケート	B	
	⑤	ふるさと学習及びESDの推進	社会や地域の課題解決や活性化に向けた活動及び調べ学習等を通して、地域に対する誇り・愛着の醸成や、持続可能な社会を創造しようとする態度の育成に努めた。	・教師アンケート	C	C
				・保護者アンケート	C	
				・児童生徒アンケート	B	

（成果と課題）
- 授業の流れが分かるように黒板に掲示することを心掛けた。しかし、振り返りまで十分に行えなかったことがあった。
- iPadの活用を心掛けたので、低学年でもロイロノートやeライブラリを抵抗なく使えるようになってきた。シンキングツールや共有ノートは今後取り組んでいく。ただし、iPadをどのように使うか考え、iPadありきの学習にならないようにすることが肝要である。
- 単元を通した教材研究を行ったことで、ゴールを見通した授業が行えた。しかし、家庭と協働して主体的な学習習慣を確立するには、保護者の協力が得られにくい家庭もあり、改善が必要である。

（改善策等）
- 学習計画を立て、地域に触れる内容を入れ込んだり、校外学習をしたりしていく。また授業においては、1時間の授業の流れをイメージして、適切な振り返りまで行うようにしていく。
- EILSをほとんど活用していないので、計画的に活用していきたい。また、ICT支援員に協力を仰ぎ、iPadの効果的な活用を研修していきたい。特に①家庭学習との連携、②思考の整理、③意見の集約を軸に研修することで、個に応じた学習へ近付けていく。
- 補充学習を行い、個人の学力差に対応していきたい。また、補充学習支援員の積極的な活用に取り組みたい。

評価項目		評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価
生徒指導の充実	①	規範意識の向上	規範意識を高めるための共通理解、共通実践に努め、児童生徒の行動規範が高まってきた。	・教師アンケート	B	B
				・保護者アンケート	B	
				・児童生徒アンケート	B	
	②	児童生徒の健全育成	児童生徒に寄り添った対応を行うとともに、児童生徒同士の人間関係づくりや仲間意識に支えられた集団づくりの推進に努めた。	・教師アンケート	B	B
				・保護者アンケート	B	
				・児童生徒アンケート	B	
			不登校の未然防止や状況改善に向けて、校内体制の整備と早期対応に努め、チームとして取り組んだ。	・教師アンケート	B	B
				・児童生徒アンケート	B	
				・保護者アンケート	C	
			いじめの未然防止、早期発見に努めるとともに、迅速な初期対応や組織的な対応等により、いじめの早期解決に努めた。	・教師アンケート	B	B
				・児童生徒アンケート	B	
				・保護者アンケート	C	
	③	基本的生活習慣の徹底	基本的な生活習慣の確立に向けて、家庭との連携・協力の下、学校全体で組織的に取り組んだ。	・教師アンケート	B	B
				・児童生徒アンケート	B	
				・保護者アンケート	C	
	④	自己肯定感　等	自己肯定感を涵養する取組の工夫・改善を具体的に行った（自分にはいいところがある）。	・教師アンケート	B	B
				・児童アンケート	B	
			自己有用感（人の役に立っている）や達成感を醸成する取組により、子どもの意識に変化が見られた。	・教師アンケート	D	
				・児童アンケート	B	

（成果と課題）
- 月に1回以上は児童一人一人と話をする時間を作った。学校生活に関するアンケートは、児童の申し出に応じての聞き取りには、時間も掛かり大変さもあったが、児童は話を聞いてもらえることで安心したり、話ができることを楽しみにしたりしていた。
- 安心して自分の言いたいことが言え、話合いのできる学級になっているか学級の状況を見直していきたい。
- 児童の争いごとについて話を聞き、解決に向けて取り組んだ。しかし、自己有用感を育てるための見届けや振り返りは不十分であった。
- 生徒指導に関する事案は、情報共有や連携が必要だ。

（改善策等）
- 毎日の学校生活の中で、児童全員と話をすることを意識し、休み時間の活動を見届けるなど、子どもたちの小さな変化でも気付けるようにしていきたい。
- 自己有用感や達成感が持てるように、日頃から学級の子どもたちと考えを出し合い、ルールを決め、実践していけるようにする。教えるのではなく、子どもたちが気付くようにしていくことが大切である。
- 生徒指導に関する情報共有の時間を月一回（職員会議・校内研修）は行っていきたい。

＜評価基準＞　A　目標を達成　B　8割以上達成　C　6割以上達成　D　6割未満

評価項目	評価小項目		評価の観点	評価資料	評価	評価
働き方改革	①	ワーク・ライフ・バランス	仕事のやりがいを重視しつつ、時間外勤務が月80時間を超える教職員ゼロを目指して、教職員の意識改革に努めた。	・教師アンケート	B	B
				・「出勤・退庁調査」の分析と活用	B	
	②	働きやすい環境づくり	新型コロナウイルス感染症5類感染症への移行後の業務改善に向けて、教育活動の回復や精選に慣例にとらわれることなく取り組んだ。	・教師アンケート	B	B
			休業日の設定を含めた計画的な課外活動や部活動等の適切な運営がなされた。	・教師アンケート	C	C
	③	他の教職員のサポート体制の充実	「何でも相談し合える雰囲気づくり」「経験の浅い教職員を皆で支える雰囲気づくり」など、温かく働きやすい職場づくりに努めた。	・教師アンケート	B	B

（成果と課題）
・ 無理のない計画で勤務することができた。
・ 退勤時刻の目標を決めて、ワーク・ライフ・バランスを意識して過ごすことができた。
・ 時間の使い方を工夫するなどして、早く退勤できるように努めた。しかし、持ち帰る仕事も多くあった。
・ 困りごとは相談しながら解決に当たった。
・ 課外活動の計画が職員や保護者に十分に伝わっていなかったり、連絡が遅かったりした。

（改善策等）
・ 日々やるべき業務は多くあるため、内容を精選して計画を立てる。校務分掌によって仕事量に差はあるが、退勤目標を設定し、持ち帰る仕事が多くならないよう、学校でできることは済ませる。
・ 課外活動について、担当教員の負担が増えないよう計画を早め早めに知らせる。また、課外体育の持ち方については、校内だけでなく、市全体としての取り組み方を話題にする必要があるのではないか。

評価項目	評価小項目		評価の観点	評価資料	評価	評価
地域との連携	①	学校運営協議会の活性化	全教職員に対して、学校運営協議会の役割・目的の周知徹底に努めた（校内体制）。	・教師アンケート	B	C
			学校運営協議会・地域学校協働活動の活性化（地域・保護者へ）を図り、地域の力を学校運営に生かすよう努めた。	・教師アンケート	C	
				・保護者アンケート	C	
				・地域アンケート	C	
	②	情報発信	家庭や地域に対して、教育活動に関する情報を、文書やホームページ等で積極的に発信した。	・教師アンケート	A	B
				・保護者アンケート	B	
				・地域アンケート	C	
	③	来校・相談体制	保護者や地域の方々が来校しやすく、相談しやすい体制・雰囲気づくりに努めた。	・教師アンケート	A	B
				・保護者アンケート	C	
				・地域アンケート	C	

（成果と課題）
・ 学年だよりを通して、学級の様子を伝えることができた。また、必要に応じて、保護者と顔を合わせて話をしたり、電話で子どもの様子を伝えたりすることができた。
・ 地域ボランティアの方との交流を児童がとても喜んでいた。交流後の手紙に対する返事をいただき、ボランティアの方の温かい気持ちが児童にも伝わっている。
・ 学校運営協議会への参加に消極的であった。

（改善策等）
・ 学校での様子を伝えられるように学校だよりや学級通信の発行回数を増やせるように意識していきたい。タイミングよく保護者と連絡を取り、協力を得やすい関係の構築に努める。
・ 来校者や訪問客への対応は、気付いた職員が積極的に声を掛けられているので継続していきたい。
・ 学校運営協議会を活発に行い、地域の力を活用していきたい。

＜評価基準＞　A 目標を達成　B 8割以上達成　C 6割以上達成　D 6割未満